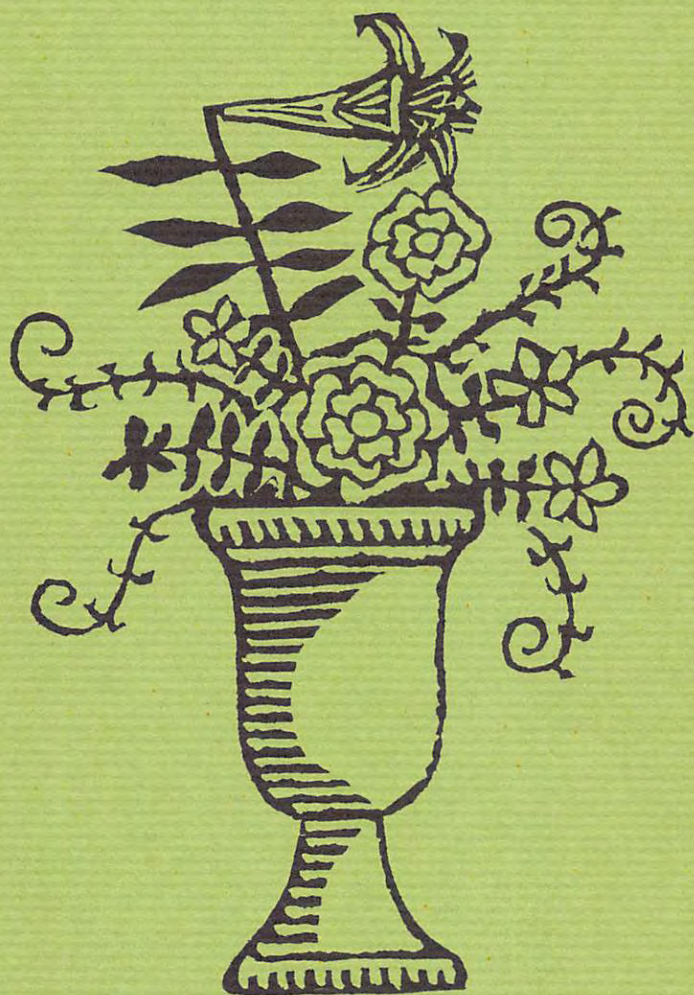


香葉



1983

NO.12

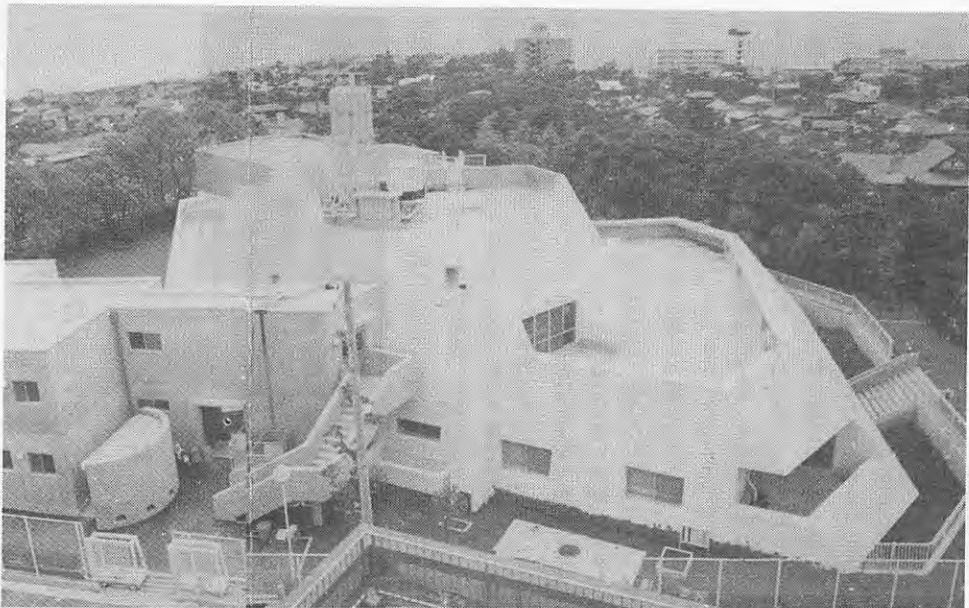
目 次

セミナーハウス	1
「学長再任にあたっての所感」	2
「条件反射」	3
覚え書 (十二)	5
展 望	8
コーヨースポットライト	12
香報室	14
英国散見記	18
クラス会報告	21
五十七年度総会報告	22
合同同窓会報告	23
賛助金をご寄付下さった方へのお礼とお願い	24
母校ニュース	25
編集後記	26

表 紙 関 頼武

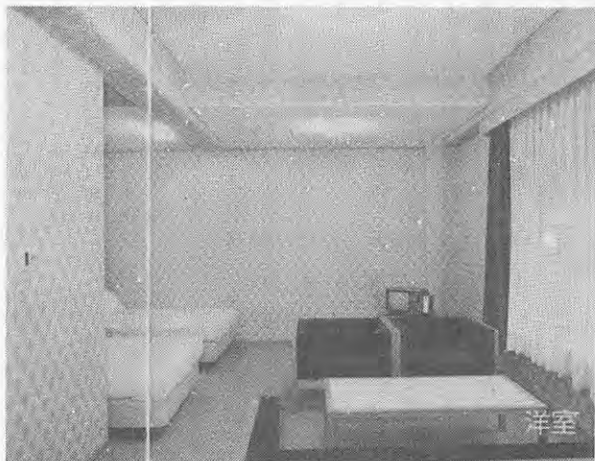
カット 青木千恵子





葉山セミナーハウス（一部）

葉山セミナーハウスは、昭和五十五年に完成した施設です。短大でもリトリート・クラスミーティング・リーダーシップトレーニング等に活用しています。



学長再任にあたっての所感

林 淳 三



去る八月末、昭和五三年九月からの四年間の学長任期を終え、この度、五度目の公選を受け、学長に就任することになりました。今回の任期は五九年八月迄の二カ年ですが、再選就任に当り、同窓会の皆さんに私の

所感を述べるとともに、本学の現状をご報告したいと存じます。五六年十一月に大学、短大の学長、理事長を対象にした私立大学充実に関する研修会が東京市ヶ谷の私学会館で開かれましたが、その際は『総合学園における女子短期大学の確立について』と題し、事例発表講演を行いました。その内容は女子短大教育の特色や確立についての一般論のほか、本学が十数年如何に発展してきたかを述べたのであります。その話の中で特に研修会出席者三〇〇余名の注目を集めたのは、本学の入学志願者が昭和四〇年から十七年間に十一、五倍（四〇年三九一名、五六年四、五一一名）に激増したことでした。そのことについては講演終了後、多数の学長から質問や賛辞を受けましたが、これはまた、今日の本学のめざましい発展をもの語るものでもあります。しかし、私は最近の本学においてそれ以上に喜ばしいことは、昭和五四年の英文科移転により女子短大として一つにまとまった専用キャンパスが得られたことではないかと考えます。共学の関東学院の中で唯一つの女子教育を行う本学は、設

立以来三春台から六浦大学構内に移されました。そのため、本学が目的とする女子教育の使命を十分果たす環境が得られないまま、三〇余年の歴史をへてきたのであります。それがようやくにして本学の特色とする教育の場が室の木の地に得られたのであります。そのことは直ちに教育や学風に反映しております。すなわち、現在の学生には単なる学問理論や実験学習の勉強だけでなく、女子としての情操教育が行われるようになりました。そして、学生は大学構内にいた時に比べて明るくなり、自由な中にも礼儀正しくなりました。服装にしてもあのケバケバしさがなくなり、本当に自分にあつたものになり、本学のカラーが生れつつあります。

室の木校地内の女子短大校舎建築は着々と進んでおります。すなわち、昭和四七年体育館建設に始つた工事は、四八年に幼児教育科用の三号館、五三年に家政科用一号館とサークル室機械棟としての五号館、五四年に英文、国文科用の二号館、更に五五年には教室棟である四号館と進み、四号館一階には学生食堂も開設されました。そして、五六年には職員アパートの一棟を法人から譲り受け、短大第二ルツ寮として改修し、寮生四四名を収容しましたので寮生の定員は九四名になりました。また、関東学院幼稚園を五六年四月から女子短大付属幼稚園にして、幼児教育科学生の教育実習の半分をこの付属幼稚園で行うこととしました。このほか、五九年には現在工事中の地下一階地上五階冷暖房設備をもち、コンピューター導入の最も新しい図書館兼事務管理棟が出来上る予定であり、また、グラウンドも金利谷校地に開発中であります。建物以外にも明年度より学生の海外短期研修や、本年行つた公開講座を更に充実する計画など、ますます本学は発展しつゝあります。

条件反射

齋藤 正男



人の体は実に複雑に、且つ巧妙にできている。たとえば眼の前に何か危険なものが来ると無意識に目を閉じる。真冬に温かい室内から凍りつく屋外に急にでると、身体表面の細い血管が急に細くなって、熱を体外に放出しないようにする。これらは自律神経やホルモンが体をうまく調節してくれるからである。

さわった、痛い、冷たい、熱いという感覚は、脊髄を通じて大脳に伝えられる。つまり、皮膚から上のほうへ行く神経がいくつもあって、その一つ一つが、それぞれの感覚を運んでいく。

これに対して、手や足を動かそうとするときは、大脳の外側の大脳皮質というところにある運動中枢が働き、その細胞が下に下がって「錐体交叉」といって他側に曲がって、そのまま下がり、脊髄に達し、ここで別の細胞にリレーし、脊髄を出て手や足の骨格筋に達するからである。この経路を生理学では錐体路といって、意志の運動、つまり随意運動というのは、この路を通って筋を動かしていく。

ところが日常の動作のなかには、無意識の動作がたくさんある。眼の前に危険なものがとんでくると、思わず臉を閉じたり、いきなり人がとび出したとき、「さっ」とよけるが、いずれも無意識におこなわれる。また意識的におこなわれる動作のなかでも、無意識的

におこなう動作が案外多い。歩くという動作でも、歩いているときは、ほとんど無意識に手や足を動かしている。このような無意識の運動は、日常生活のなかにならぬ。皮膚を刺激すると手を引こめる。光を目に入れると瞳孔が瞬間的に小さくなる。ものを飲みこむとき、咽頭の粘膜に食物が触れると、食塊を食道から胃へ引きずりこむ嚥下などがあげられる。これを反射といっている。

これらの反射は、先天的に、また生後間もなくあらわれる反射である。

先天的反射の一つに、モロー反射というのがある。新生児のからだの位置を急に替えたり、また刺激したりすると、両腕と両手を広げ、抱きつくような運動をする。これは新生児には生理的な反射であり、これが現れることは、神経系に異常のないことを示し、したがって脳に障害があると出現しないことがある。しかし三ヶ月から四ヶ月以上もこれが現れるのは異常である。

人が生れつき持っている反射以外に、人に特定の刺激を与えることにより、生後獲得された反射を条件反射という。食事を食べるとき唾液が分泌するのは無条件反射である。

犬の胃に穴をあけ、ドレーンを入れて、そこから出る胃液の出かたから、ソビエトの生理学者パブロフは条件反射の理論を考え出したといわれている。

犬にベルの音を聞かせてから餌を与える訓練を何度も繰り返すと、ベルの音を聞くだけで唾液の分泌が起こるようになる。このような反射を完成させることを条件づけといふ、条件反射を起こさせるために用いられた刺激を条件刺激といっている。

僕の友人のAという某医大教授が、この条件反射を病気の治療に

利用したといっていた。それは手拳大に腫れた胆のう水腫の患者を十二指腸ゾンデで治療していたとき、胆汁がうすく、排出量が少いので、患者の好物のウナギを目の前においたら、胆汁が多量に排出され、やがて胆のうが小さくなって治癒したといっていた。

日常生活においても、いろいろな条件反射が経験される。たとえば、梅ぼしを見ただけで唾液が出てきたりするのがそれである。サーカスの動物が曲芸するのも、条件反射を応用したものである。またある音声パターンに特定の概念が「反射的」に結びつけられたのが言語であるが、広い意味では特殊な条件反射ともいえる。

かつて国際学会に出席のついでに、欧米を旅行したことがあったが、一部の国を除き、日本と反対に右側通行が多かったが、横断歩道を渡るとき、反射的に右を見てから左を見るのに対し、あちらでは、左側を見てから右を見ないと危ない。ということで、なれるのに苦労した体験がある。

また街の中を歩いているときなど、人につき当りそうになると、日本人は左によける、あちらの人は右によけるといふ具合に、永い間の反射というものが、急にはなならないものである。

僕の家は戸塚であるが、たまに東京など遠方に出かけ、帰りは当然のこと乗車券は求めるのだが、いつも通勤で利用している戸塚駅の改札を出るときには、ついポケットの通勤定期券に手が運ばれてしまう。

またこういうこともあった。三十数年間の公務員生活を清算し、本学に勤務しはじめのころ、早朝家を出て、横浜駅に着くまではよいが、車中で新聞や本を読んでいると、つい京浜東北線のホームに足が運ばれて、「はっ」としたことがある。

このような条件反射的な動作は、日常生活の中に多数あると思うが、その中には、個人の特徴とか、癖となつていっているものがかかりあるのではないかと思う。また健康な生活習慣をつけるとき、たとえば幼児のような場合、理窟がまだよくわからない時期であるから条件反射は有利な「しつけ法」ともいえる。



覚え書 (十二)

— 女専・短大小史 —

上市 二郎

昭和五十九年四月完成すべく図書館等の建物（地上五階地下一階で、図書館は二、三、四階を使用し地下は書庫が計画されている）の新築工事起工式が本年（昭五十七年）十月十四日（木）午後一時より挙行され、理事長、学院長、学長始め理事、各校長、設計担当久米建築事務所代表者並びに施工担当フジタ工業代表者の順に納入が行われ式も滞りなく終了した。この工事のために桜の木が移植されたり、前号の冒頭にも記してあるアカシアの樹も三本だけ残して残り八本は移植することに決った。そのための根切り作業も既に終っていて、正門より入る道の様子が大変変ってきている。このような様子も記しておくと思え書きのメモになるのではないだろうか、と思っている。

さて、前号では昭和二十九年三月、六浦校地へ文部省より私学委員と文部事務官が移転

の爲の査察に見えた処までであった。これでも短期大学は総べて三春台校地より姿を消すことになるのである。

移転に関しては折ある毎に述べてきたが、現実には色々のことがあった。その一つに今でも耳に残っているのは夜間部の学生が「六浦校地に移つては遠くなつて困る。せめて夜間部だけでも残してもらいたい」と言う声が多かつたことだ。その頃英文科第二部の責任者であつた今は亡き光畑愛太先生が次のように述べていたの思い出す。「移転するからと言つても君達は今迄より十八分余計に登校時間がかかるだけだ。君達が黄金町駅で下車する処をそのまま急行で十八分足を延ばせば金沢八景駅へ着く。黄金町駅で下車して三春台の丘へ登つてくるのも、八景駅から六浦の校舎へ行くのも時間的には大差ない。だから三春台校地から六浦校地へ移つても僅か十八分の違いで大したことはないんだ。その代り始業時間を少し遅らせる考えだ。だから僅か十八分の違いで勉強を止めるなんて考えを起しちやあいかんよ」と繰り返し繰り返し学生に述べていた。それに生憎と短期大学の責任者相川高秋先生が米国へ留学中。責任者が不在の処で総べてを移転するためには苦勞が多

かつた。それでも、二月の半ばを迎える頃ともなると具体的に色々のことがきまつてきた。一つの学校が移転することとなると並み大抵のことではない。運搬に関しても各部門別に責任者を設けて、その任に當つてもらふことにした方が良くということになつて教授会で次のように発表されている。図書館係は兵藤正之助先生と小滝奎子先生（両先生とも現在文学部教授）普繕係は柴三九男先生と柳生直行先生（現学院長）それに今は亡き遠藤憲亮氏、学生部関係と運動部器具機材等は門根静子先生（現捜真女学校嘱託教諭）と宮島恭子（現保科）さん、事務所関係も色々あつて、遠藤憲亮氏が学院本部付となつたため、庶務関係は文書関係は勿論人事給与関係書類を含め松本久子さん（現図書館係長）と私、教務関係および英文タイプライター十台その他は安藤順子（現宮沢）さんと私。ピアノ、オルガンなど楽器類は安藤寿々代先生となつていた。前にも述べたように決定権者が不在のところは総べてのものを三春台校地から移さねばならないため、先生方に割当分お願いしても仲々の苦勞があつた。グレースット記念講堂に入れてあつた本学後援会寄贈のベンチ（長椅子）のこと、当時の暖房器具（ダル

マストーブや貯炭式ストーブ、それらの煙突のこと。そもそも戦争の終わった何も無い時代であったこと、女子の学校であるがためにピアノも必要でしょう、一台でも多くあった方が良いでしょうと、親切にミセス・タツピング（当時の宣教師）のご厚意により寄贈されたピアノ。これが移転するどたんばになって何処へ行ったのやら分らなくなり苦労して捜したものだ。その時代はピアノの無い学校もあつて、短大に二台もあるのは贅沢だ、との考え方からきたのだ。そう、我々には説明もなく二年程前に新しく出来た学校の方へ移動されて使われていることが初めて判ったが、本当に迷惑したものだ。

四月一日（木）から三日（土）にかけて移転を完了することになっていた。そのため一日の朝八時半には大型（多分四トン車のロングである）のトラックが裏門より入ってきた。停車中の上を見ると霞ヶ丘教会の入口付近からグレースット記念講堂の裏にかけて、ドカッ！と巨体を横たえている感じだった。さあ！いよいよこれから移転開始である。役割分担に従つて六浦校地とのピストン輸送であるが、荷物の積み下ろしも現在のように日通（日本通運株）を利用して総べてをまかせそ

の任に当つてもらつた時代と異なり人手がなくて苦労した。そのような折、短大英文科一回卒で当時の宣教師ピース先生の秘書をしていた山路淑子さん兄妹が友人達に声をかけて夜遅くまで応援してくれたのには感謝感激だった。白髪の老人だったピース先生ご夫妻は当時木造建の一号館二階の奥に住んでおられたの思い出す。そして運んだ荷物の置き場所は？これもまた悩みのたね。例えば書籍などは大学の図書館へ段ボール箱に入れたまま、一時預かってもらうことにした程である。当時の大学図書館は旧海軍航空技術廠工員養成所の施設だった頃の浴場であつた。大きな浴槽の上に厚い板を並べ、その上に書棚が並び書庫の形態をなしている部分があつた。後にこの場所が家政科の専門科目の実習室になり、やがては短期大学専用の建物（短大本館・別館）が立ち並ぶのである。ところが今は大学の十号館となつている。しかし風呂場時代の高い煙突はそのままの姿で立っている。彼だけが総べてを知っているかのように。

事務系職員は大学の各課に一名づつ配属して、当該課に加わつた者が短大係りとして勤務すればそれで事足りる。それで総べてが順調に運ぶと思つていたらしい。ところが四年

制と二年制（特に女子教育）とでは単位の面でも履修方法が違うし、専門の学部と学科の内容も異なるので、そう簡単に各課の中に短大係りを置けば済むというものでもなかつた。当時の学長白山源三郎先生に再三再四交渉をもつて良く説明した。その結果やつと理解してもらい短期大学は大学とは別に事務室を設けて各課並びに夜間の業務を一室にて取扱うことになり部屋が与えられた。場所は木造二階建の一号館一階南側の部屋だった。その隣りに半分位の大きさの部屋があつて、そこが非常勤の先生方が捺印後一寸休憩したり、また来客者との面談の場所でもあつたり、放課後は事務の会議をする所として色々に使用した。処で学生の教室は、何処を使用して良いのやら。やがて木造二階建の三号館の二階全部の教室を女子専用（短大専用）とする、ということに決定した。続いて夜間の英文科の学生は二号館一階の教室を使用する。



というように大学の校舎をお借りするような感じで肩身が狭かった。この頃のことをよくスピーチの材料になって昔話として語られる。それは、二階の廊下を歩いていると、床材が古く各所に穴が開いていて、一階の廊下を歩く人が見える所もあるからだ。早速廊下の床を張り替え、男子の手洗所しかなかったので急遽女子専用造り替え、教室も廊下も総べてペンキで化粧し準備を進め新学期に備えたものであった。狭いこじんまりした三春台校地から来た学生達は、六浦校地の余りにもだだっ広い殺風景な校庭に戸惑っていた。白山学長は九十五、六パーセント男子学生で占める四年制大学内に短大の女子学生が移ってきたのを「荒野に花園が生まれたみたいだ」と言って喜んでくれた。毎朝行なわれる礼拝などは特に華やかな雰囲気になったことは事実だった。このように短大生は大いに歓迎されておったが、時が流れ昭和四十三年には文学部が発足しそれからピタッと風向きが変わってしまったのも確かだった。移転のことから大分外れてしまったが、一応三日間で運搬だけは終了した。しかし、整理整頓が終了して落ち着くまでには相当の日数がかかったことも思い出される。

この年の宗教活動の記録は、六月十日(木)に宣教師のニコルソン夫人に礼拝の説教をお願いして午前十時より「花の日礼拝」を行っている。従来と同じように放課後その集まつたお花を手に手に有志の学生達が各施設へと分かれて慰問に歩いたのである。当時は教授会を木曜日を開くようになっていて、この日も午後後に会が開かれている。その席上坂田祐学院長(相川部長不在中は坂田先生が短大の責任者として兼務され議長をされていた)から四年制大学内のキリスト教研究所を目下神学部に移格させようとその設置準備を研究し種々会合をもつて進めている、との報告があった。しかし実際には昭和三十四年四月より開設されている。従来より学部を設置することは如何に難しいかがこれでも良く解ると思う。

いよいよ夏の休暇に入るのであるが、この年の体育部主催のキャンプは八月九日(月)から十四日(金)迄で、行先は上高地、費用は交通費宿泊料等を含め二千元となっている。この時の指導付き添いは兵藤先生、光畑先生、安藤先生だった。そして慣例の修養会は、英文科第二部の学生達が、七月十日(土)午後六時より翌十一日(日)にかけて葉山の

霊翠館に於て実施している。この時の指導者は光畑先生、時田先生、大島邦雄先生、ミスター・ニコルソンだったが学生には良き思い出となっていることだろう。昼の部はどうか、というと、毎年頭を痛めているのが会場であった。ところが、この年は中伊豆の温泉郷「湯ヶ島」から歩いて三十分位山に入ったところに日本バプテスマ連盟が管理する研修会向けの山荘がある、というニュースが耳に入ってきた。早速交渉すると借用可能ということで、その事務局へ連絡を取ることにした。当時は東京の新宿区西大久保に天城山荘東京事務所があつて、そこで山荘の使用計画が立てられていた。そちらへ申し込み手続きを完了して、予定された期間七月一日(木)から三日(土)まで借用することとなった。これが本学にとって最初の天城山荘使用となるのである。



矢嶋 展



このインタビューのコーナーは、好評のうちに四回目を迎えました。この度は、各科よりお一人づつ登場していただきました。教室では見られなかった先生の横顔を見ることができるかと思います。

1

母校（関東学院大学）の後輩達が箱根駅伝に出場することです。15校出場で前年度の上位9校は決まっています。後の6校は予選で決めるんです。今は監督をやめています。これは十年來の僕の夢なんです。僕自身の事では、三浦半島選手権20年連続出場をめざしています。今回は17年目で八〇メートルで自己ベストタイムが出たんです。そして、いつかはボストンマラソンにも出場したいと考



一般教育 矢嶋 道文

質問1 仕事を離れて今一番興味のある事、物は何ですか。

質問2 初恋の思い出は？

質問3 スポンサー付きで旅行へ行くとしたら誰と何処へ行きたいですか。

質問4 横浜について思うことは。

質問5 最近特に印象に残った本は。

えています。

2 初恋というと、胸をときめかしたことで、中学時代のことを思い出します。東京から葉山に引越した時、前の学校であこがれていた女性から手紙をもらったのですが、この手紙をどこで読んでよいのか真剣に考えましたね。なんと物置きで読んだのですが、まっ暗で読めませんでしたよ。

3 昔は、アルプスの裾野、牧場へ行きたかった。自然が好きです。今は、地中海。文明の発祥地ですから。誰とつてももちろん家内ですよ。でも、もしもの世界なら恩師（故加茂儀一先生）のカバン持ちをして、一緒に行きたいですね。

4 港です。小さい時、東京に住んでいたのですが、父が船乗りだったので、よく母に手をつながれて港まで行きました。今でも大きな船を見ると胸がワクワクします。異国へ行く時は、シユウマイ弁当を持って勇ましく祖国を出たいですね。

5 「騎行・車行の歴史」加茂儀一著。恩師の遺稿本です。先生は、この原稿を書きながら亡くなってしまいました。弟子達がいよいよ絵探などをして、出来た本です。この本は馬の歴史を見ているのですが、

それを通して、人間の歴史、生活史を知ることが出来ます。僕自身、文化史を教えています。この文化史というのが何なのかを考えてみると、それは人間の生活史であるということが、この本を読んで改めてわかったことです。

英文科 小林 進



1 能に凝っています。まず非日常的であるというのが好きです。屋内ではなく例えば鎌倉の薪能の様に外に舞台があるのが良いですね。自然と虚構が相互に屹立する。それがいい。全く違った時間の流れに遊ぶという感覚ですか。月に一・二度行きます。

2 初恋といってもいろいろあってというのをおかしいが……。そうそう小学校に入学したての頃担任の先生に大きくなったら何になりたいかと聞かれた時、僕は「お医者さん」と答えたんです。順番に聞

いていくうちに「看護婦」になりたいという女の子がいてそこで先生が「じやあ小林君と結婚するといいわね。」と言ったんです。その一言がやけに胸に残って、卒業する位まで僕はその子をお嫁さんにするのだと思いつけてました。(笑い)
3 宇宙に行ってみよう。銀河鉄道999に乗って千年女王を捜しに。誰と?……理想を捜しに出掛けるのだから、独りじゃな

4 いかなあ。

小学校に入る前のこと。母親が畜音機と「赤い靴」のレコードを買ってくれまして、この歌を聞いていると目の前に海が浮かんでそれが遠く外国につながっていつて、異人さんが女の子をさらっていつてしまふという情景が想像されるんです。横浜というところ、なぜかその幼児期に抱いたイメージがフツと思ひ出される。むしろ暗い哀しい色彩が強いなあ。あれはやつぱり、人さらいの歌かしら。(笑い)

5 本というより、テレビドラマで良いですか……。『必殺仕事人』シリーズが好きです。昼は役人飾り職人三味線屋などの仕事を持った人々が、夜になると殺し屋になって全く異なった人間(属性)にな

る。夜に解放される。秩序がとりはずされる。現代社会では社会の枠組の中にいろいろな体系があつて、そのシンボルの体系を人々は身にまとい生きています。現代は価値観が多様になったと言われど、そんなに自己の多面性を自由に表現できはしない。あの番組は、我々のそういう多面的な自己を自由に表現してみたいという、潜在的欲求を実現してみせているという意味で、ひとつには視聴率が高いのではないかな。また他方で日本の文化構造、つまり二重構造をよく具体化している。昼と夜、表と裏……。

家政科 岡田 宣子



1 自然に親しみたいですね。自然の中を歩いてみたり、草花を見つけて活かしてみたりするのが好きです。他には、絵とか工芸的なものをみに行くのも好きです。
2 小学校の高学年ぐらいの頃でしょうか。

よくみんなできやあきやあ遊んでいる中に、けっこうたのもしい男の子がいますでしょう。最近の子供達はあまり大勢で遊ぶなんてことはしないようですが、私達の頃はみんなで近くの山にいったりして、男の子女の子の区別なく遊んでいましたから。名前は覚えていないですねえ。みんな家でカーテンをひいて演劇をしたり、なわとびをしたり、川に魚つりにいったりもしましたね。

3 一番行ってみたのは宇宙旅行です。宇宙から地球をみてみたいですね。宇宙というのは果てしなく続いていて、人間の科学ではまだまだ制しきれないものがあるか、神秘性がありますでしょう。だから興味が大変あります。

4 私は横浜の住民になったのはまだ最近なんですけれど、まだ学校のあたりに自然が残っていますし、ことにこの部屋(研究室)から見る夕陽はすばらしいですね。その日によっても違うし、時間によっても違います。帰りに橋から見る夕陽はまたとてもすばらしいですね。どんどん発展しているいろいろなものが建って、車だと

かいろいろな問題が出てきますけれど、自然と調和した発展を考えて、これから長い間生きていく我々人間が人間性を失われていくような生活にならないように気をつけていかなければならないんじゃないかと思います。

5 子供から進められて読んだ本なんです。『大草原の小さな家』という本です。本を読むとまたテレビとは違うんですね。昔の開拓者の移り住んで行く、そして一つ判断をまちがえれば家族全員が死んでしまうかもしれない状況の中で、家族全員が苦しみを分かちあひながらたすけて、心暖かく、心豊かに生活しているいろいろな場面がでてくるので、大変印象に残っています。家庭の原点がそこにあるようで教えられるところがたくさんあったような気がします。

幼児教育科 朝倉 陸 夫



1 車の整備(エンジン等)、とドライブ。初恋は、高校生の頃、教会のボランティアグループの仲間、一歳年上の女性で短大の保育科の学生でした。福祉、心理、教育等々について会話し、考えさせられました。恋心のようなものは、小学校四年生の頃からあり、その女の子のため、川で魚等一生懸命とったりしていた事を記憶しています。

3 次男15才と、車で北海道一周旅行をしてみたいと思います。

4 明るい街だと思います。しかし横浜らしさ、ミナト横浜という印象は薄くなっていると思います。都市計画整備(下水道、道路、住宅)等、ニュータウンばかりではなく全体について横浜らしさが出るように考えて欲しいと思っています。

5 ジャン・パニエの「希望にあふれて」日本基督教団出版局発行。

障害と苦難を愛をもって受容することがどういふことか教えてくれました。

展望 番外編

今回は皆様からの御要望が高かったお二人に登場いただきました。我ら心の師、下田哲先生。日本の機関車は全て持っておられるという機関車マニア。

国文科の若き貴公子、岩佐壮四郎先生。絵では語り尽くせなかった読書家。一度、研究室に寄ってみては……。 [協力：漫画研究会]



コーヨースポットライト

三島泰子



初めて雲海を突き抜けて空を見た日から、四年半たちました。青い絵の具を一面に流したような空に飛行機が離陸する時のスピード感、轟音と共に銀色の翼が空に舞っていく、あの美しい流線形のオフイスで働い

てみたいという憧れからスチュワーデスへのパスポートを手にした時の感激は今でもその努力が自分の心の支えとなっています。

私たちの仕事は不規則勤務ですので、朝早い時は六時までに出社し、最終便で到着する頃には九時半を廻っていることがあります。早朝便で飛行場の中をクルーバスで走っている時、(「駐機場」)「綺麗に並んでいる飛行機を見ると、「さあ、これから日本の空を飛び廻るんだ」と勇ましい兵士の様に見えます。また最終便で着いた時は翼を休めている飛行機に「今日一日お疲れ様、明日も宜しく」と声を掛けてあげたくります。毎日に変化に富んだ生活の中で、今までもあった出来事を簡単に書いてみました。

○月○日

千歳からの最終便。季節柄北海道への旅行者が多く、満席の中で

のサービスは中々きついものです。お客様との短い会話のやりとりの中で、「お飲み物はコーヒー、オレンジジュース、ワインとございますが、いかがなさいますか？」一人一人に同じことを聞いていく簡単なことの様ですが、途中でお客様が「週刊紙くれないかなあ」とおっしゃいました。そのあと私がお客様にリクエストを聞いた言葉は、「お飲み物は、えーと、週刊紙」「え?!」いけない、いけない、たまにこういうミスをしてしまうのです。テーパーコーダーでもあって、それを目の前に差し出したい気持ちですが少しでもお客様と接する為にも声を掛けることがサービスと 생각합니다。夜の間でしたのでワインのリクエストが多く機内後方にさしかかりますと、不足してしまいます。後方に団体のお客様がいて、搭乗前に少々お飲みになっていた様子で、その周りは賑やかなものでした。早速、ワインのリクエストを受けましたが、「申し訳ございません。ワインを切らしてしまいましたので」と丁寧に謝りますと、「なんだよ、姉ちゃんワインがあると思っただから乗ったのに」と思い切りお尻を打たれてしまいました。一瞬、啞然として声が出て来ませんでした。が、ここはにこやかに「お客様次の機会には必ず」と。仕方なくコーヒーを飲んでいただきましたが、道内の旅行を終え、帰路に着く飛行機の中で不愉快な思いをさせたくありませんが、何とかわかっていただきました。その団体のお客様が飛行機を降りられる時に、「どうもありがとう、世話になったね」と深々と頭を下げたのです。私の胸に何ともいえない感動が込み上げて来ました。ああこれなんだ。自分の誠意に対して報酬や感謝を期待してはいけないのですが、一生懸命働いた満足感と充実感、足取りも重く疲れた中に、これが仕事の中で喜びなんだと知りました。サービスというものは、た

だ単に事務的に終わらせるものではなく、お客様に目的地まで快適に過ごしていただく様、真心のあるものでなくてはいけないのです。これからも美しい日本の空を翼を広げて一人でも多くの方に快適な旅を味わってもらう為に笑顔でいらっしやいませ。

○月○日

スチュワーデスというものは、飛行機に乗っていて、保安要員としての役割をあなたが見過ごされている様に思えます。やはり私達はお客様が目的地まで安全に到着するということが第一のモットーなのです。先日も着陸間際になって、私達も座席に座り安全ベルトをした時、突然中年の御婦人が後方に向かって歩いてくるではありませんか?! 地面はすぐそこに見えるのに平気な素振りで「御手洗使っていないかしら?」電車の感覚でいるのかもしれないですね。「いえ、間もなく着きますから座って下さい」と強く要請し、空席にあわてて座らせ安全ベルトをしめさせましたらドシーンと強い衝撃が体につたりました。キャプテンがいつになく見事な着陸。ブレーキと共に逆噴射の音が機内に響き体が前にのめり込む感じで停止しました。結局私は、通路に座ったまま着陸した訳で、お客様には何の怪我也なく済みましたが、飛行機の事故は離着陸時が最も多いと聞きます。安全ベルトをしているかいないかによって私たちの身も危険にさらされるのです。やはり航行中より離着陸時は、一種の緊張と不安が交差しますが、お客様の身の安全の為に保安要員として毅然とした態度を取るといふことも大切な業務の一つです。

初めて会ったお客様に笑いかけたり、ちょっとした会話をしてみるというのは、スチュワーデスにとって、一つの仕事になります。

でも、何も知らない人に話しかけるということは、大変難しいことです。何も考えず、がむしやらにやれる時が、自分にも、精神的に良いし、お客様に良い印象を与えるのだと思います。常に新人のフレッシュさを忘れないこと。一期一会の精神で、プロに徹するということ。まだまだ、これからの課題になりそうです。私もこの仕事をいつか離れる時が来ると思いますが、その時には、私はスチュワーデスという職業について本当によかったと言える様に、いつまでも、初心を忘れず充実したフライトが出来る様、努力したいと思っています。



◎筆者紹介

昭和五十三年三月に本学英文科を卒業され、現在は東亜国内航空に勤務されています。

香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の総会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿などお送り頂ければ幸いです。

今年一月十五日に長女が結婚しまして何か家の中が淋しくなりました。でも近くへ嫁いだので会うことも出来ずし、電話で（おかあさん）と娘の声。何か、ほっとする気持ちです。ママさんテニスに入って四年。相変わらずラケットをふっております。病気知らずの元氣ハツラツ。年令など、どこへ？という私です。

* 中沢（斉藤）富士子 25英*

早いもので教師となり二十九年目を迎えました。その間に、結婚、長男（大学一年）次男（小学四年）と二人の子どもに恵まれ、主人も横浜市立中学校副校長となり、この上ない幸せな毎日でした。でも神様のいたずらにしてはあまりにもひどすぎる、生涯忘れぬ日が、本年三月十九日によって来ました。三年半の長い闘病生活でした夫が、そのかいもなく、ひとり旅立ってしまいました。今は二人の息子と職場の同僚にささえられて頑張っております。（横浜市立末吉中学校勤務）

* 馬越（松崎）千恵子 28英*

機械類の輸入販売を主業務とする会社を経営しているので今は会社業務の為十五ヶ国出張して居ります。滞在期間は一〜六ヶ月で長

期間ではありません。主に欧米諸国です。現在は何れの国に於いても英語を話す人が多くなっているので色んなことを話し合いを通じて学ぶことができます。とても良い人生勉強に成ります。

関東学院に於いて英語、其の他を教えて下さった諸先生に感謝して居ります。同級生でたった一人、公私共に話し合える場所に居るのは遠山紀元君です。共に二十四〜二十五年前に学んだ同志ですが、当時を語る時、懐かしく感じます。

多忙の為、同窓会に出席出来ぬことを残念に思つて居ります。皆様にお知らせし御伝え下さいます。（新光商事(株)勤務）

* 篠原繁治 33英*

十年前と少しもお変わりない先生の、昔のルツ寮や、リトリートのお話、なつかしいっぱいの思いで、何度も読み返し、すっかり学生時代の心地にもどしていただきました。すさまじい風ふきぬけるルツ寮での生活、若さで力がありすぎて、ドアをしめるのに勢いあまってよくはずしてしまつたこと。火ばちをかこんで、丹前をごっばり着こんで、まるでだるまさんのようになって試験勉強したこ

と。窓の前に干した下着が盗まれ、一晩中、どろぼうをつかまえると、ねむい目をこすりながらみはったこと。おんぼろだったからこそ味わえない楽しさでいつぱいでした。わが子も小五と中一に成長し、大人になったら、お金持ちと結婚したいと言います。ぜいたくではなく、我慢する心を教えこむ毎日です。校舎が立派になることと同時に心の成長もとげたいものです。大阪から福岡へ転勤になります。同窓会出席の夢が遠くなるばかり、香葉のお便りを心よりお待ちしております。

早崎真代 39英

月日の流れは早いもので、もう卒業してから十四年になります。軟式テニス部時代の楽しかった思い出とたくさん輝かしい青春を過ごして六年前に結婚した私も、現在では五才と三才の女兒の母親になり、団地自治会の役員などして多忙な毎日を送っています。でもフツと逢いたくなるのは軟式テニス部時代の同級生の皆様です。いつかもう一度集まれる日を楽しみにしています。

福田竹末 43家

香葉雑誌をいただくたびに、もう一年がめ

ぐって来たのかと思います。旧姓欄に今年はずい来年のいまごろは……と望みながら、また去年と同じように書いております。いくらかめんどうみのいい関東学院でも、卒業生の縁談までは窓口を開けて下さらないでしょうねエ……

松岡文子 44家

上の女の子が小学五年生、弟が二年生になり、やっと自分の時間が持てるようになったので、三年前からジャズ・ダンスを習いはじめ、三月末に初めて舞台上に立ちました。運転免許も一ヶ月でとりました。車がきたので、さっそく乗り回しております。三十四才にしての「初体験」でした……。

藤木(楠原)照子 45英

久しくご無沙汰致しております。毎年、香葉を楽しく拝見させて頂いております。

学生々活からもう十年たったのか……とつくづくなつかしく感じる今日このごろです。私も小学校一年と幼稚園年長児の二児を育てながら毎日の家事に追われる主婦です。暇なときは自分自身の勉強の為にもと、近所の小中学生に英会話を教えながら学生時代をなつ

かしんで居ります。人になれ、奉仕せよ……この素晴らしいことばのもとに学んだあの学生時代……我が青春！

我が母校の発展を心よりお祈り申し上げます。
二見(小川)千代美 46英

杜の都仙台で生活を始め早くも五年。まさか東北新幹線開通まで仙台に居ないだろうと思っていた予想もはずれ、間近に控えた開通を楽しみにしております。上野まで約二時間四十分とか。今年の秋、初めての出産を控え、少しでも実家に近づいた気がして新幹線の開通を二重に喜んでおります近頃の私であります。
平田(手沢)広美 49英

今年の二月、妹の結婚式で実に八年ぶりに横浜に行きました。都会のあわただしさにあらためて自分がすっかりイナカの人間になってしまったことを痛感しております。毎年、この香葉のおかげで、学校がどんどん発展し、大きくなって行くこと心から喜びを覚え、是非一度行ってみたいと思っていたのですが、どうしても時間の都合がつかず本当に残念でした。しかし久しぶりに学友達と再会し、楽しいひとときを過ごすことができ幸いでし

た。

栄養士という御免状を頂いて(辛くも)、それをどこで活躍させようかと思つていましたが、実にそれは我家にあつたのです。我家は部屋数六つ程の旅館というよりはたごと言つた方がふさわしいのですが、お客様のために毎日毎日料理を作つていく喜びは、又ひとしおです。そして二人の子供達の為、主人の為にお弁当を作つたり、おやつをこしらへたり、充実した日々を送っています。

甲斐 昌子 49食

香葉をお送り頂き有難うございました。素しく拝見させて頂きました。

私が前橋に住むようになって早いもので一年がたちました。当初は心細かつたあたりの静けさも今ではもうすっかり身につけて毎日をゆつたりとした気分です。

四方を囲む山々や田畑が四季の移り変わりをまざまざと見せつけてくれます。夜になれば満天の星。自然にかこまれ、生来のものびりした性格が助長されたよう。今度横浜へ帰つた時にはたしてあの雑踏を乗り切ることもできるかどうかとても不安です。上州弁もなんとなく自然に身につけて、自分で言っ

た言葉に「ぎくっ」としたりして、自分の純な性格に驚かされているこの頃です。

学校を離れてみると、香葉のページーページの重みがとても身にしみます。次回の送付、楽しみにしておりますので、大変な事とは思いますが、よろしくお願い致します。今後の短大の発展と皆様のご活躍心よりお祈り致します。

武井(福地)勢津子 50英

学生の頃苦手だつた英語。どういう訳か外国部に配属され、書類も手紙もすべて英語。

最初は何が何だかわからなかつたけど、最近ではベテランといわれるようになりました。仕事はとても忙しいけど、男性と同じように仕事させてもらい、満足して働いています。

(北陸銀行・外国部)

藤巻和子 52国

卒業後四年間、横須賀市平作にありますが北幼稚園に勤務していましたが、この三月家事都合の為退職致しました。同園には今年二年目という、やはり関東学院短大の後輩が毎日汗を流して頑張つております。あんなに在学中恐怖だつた村上先生の授業も、今は良

い思い出で、毎年、実習生の為に我園へおいで下さつた時は、本当にそのたびうれしく思つたものです。在学中の方も一歩一歩頑張つて下さい。

子供達は本当に愛すべき相手ですよ!

結婚は一年前の三月にしました。(鶴ヶ岡八幡宮の中で)そのうち愛すべき子供に恵まれることでしょう。

深沢(野沢)夕美 53幼

早いもので、卒業し就職をしてから3年目を迎えました。おかげ様で、よい先輩や、よい仕事環境に恵まれ、学生時代とはまた違った生活を楽しんでいきます。今は休日にも会社でテニスをし、もっぱら会社オンリーの生活にあげ暮れています。時々短大の国文の演習室で本を開いて、ポーツとしていたいナァなんて思つたり……(住友電工(株)横浜製作所)

野上世津子 55国

はいいもので、勤務して三年目。今年には年長組四十三人の担任です。はじめての年長、そしてこの人数、毎日悩むことばかりです。教会生活もオルガニストとして、月二回礼拝で奉仕させて頂いています。やっと足つきでひ

けるようになり、今年度の夏のキリスト教音楽講習会ではパイプオルガンでいけそうです。少し残念なのは、教会学校の先生を続けるのが出来なくなったこと。又学校が遠くて遊びに行けないことです。(愛泉幼稚園勤務)

三好尚子 55幼

高校で理科助手をしています。秋になりまずと実験に使うバッタの精巣を手に入れるため、雄バッタを求めて校内の草むらをかまよい歩きます。捕えたその場でお頂戴!! そんな自分の運命を知ってか知らずか、オスはどこかに身をかくし、お目にかかるのはメスばかり。あげくの果てには同僚から「人間ばかりか、バッタのオスにまで敬遠されている」と笑われて、全く立つ瀬がありません。しかしそんな声に負けずに、きつと今秋も私は、ハサミとピンセットを握りしめ、草むらに力強く立っていることでしょう。

(県立津久井浜高校勤務)

梅沢みゆき 55幼

4月からの番組で毎週(土・日) 14・6・30
19・20にラジオ短波でストリート・ナイターの雨傘番組のDJをやっております。『原

めぐみのワイワイミュージック」という名の番組なんです。「ミュージック」というほどこいつも曲を流せない状況です。もうそろそろ梅雨です。早く二時間五十分を放送できる日が来ないかと心待ちにしている毎日です。よかつたら聞いてみて下さいね!(才賀企画)

原めぐみ 56食

社会人となり3ヶ月目になりました。やはり仕事というものは大変なものです。短大を一段と厳しくしたような感じ。何事も自分からやっついていなくてはと残されてしまいます。でも自分を成長させるには最高の場と思います。短大時代に1年だけ体連委員をやりました。その時は大変でしたが、今思うとその経験が役にたっているような気がします。懐かしいです。(ソニー(株)厚木工場)

多田祥子 57国

美容師としての道を歩もうと決心して、資生堂美容学校に入学してはや3ヶ月近くになります。高卒の若い人達と一緒に毎日シャンプー、ロット巻きとがんばっています。美容師となるには、国家試験を受けなければなりません。その科目には公衆衛生や伝染病学

などがあり、関東時代学んだいろいろな科目がそのまま現在の勉強につながっていて、とてもためになっています。みなさんいろいろな職業についてがんばっていられると思います。私もがんばりますので、これからも御指導よろしくお願いいたします。

中沢いづみ 57食

保母になって約二ヶ月、まだまだ不慣れなことだらけ……。四月当初、怒られたり、注意されたりで私には向いていないのではと思ったり落ち込んでばかりでしたが、最近どうやら子どももなついてきてくれて、保育園に行くのが楽しくなってきました。

まだまだはじまったばかり……これからだ””と思いつながらがんばっています。三歳児ひよこ組十二名の担任。子どもとともに成長していきたいと思います。

(小田原市立曾我保育園勤務)

岡本直美 57幼

英国散見記

宮川 喜代江



昭和五十六年夏、
本学海外研修の機会
を得て、英国を訪ね
た。一口に「イギリ
ス」と言うけれど、
英国は伝統も守護聖

人も異なるイングランドとスコットランド、
ウエールズ、北アイルランドから成る連合王
国で、ユニオン・ジャックはその四つの国旗
を重ね合わせたものである。一か月という短
期間でオックスフォードを中心にロンドン、
ストラットフォード、ウエールズ、エジンバ
ラを少しでも見て来たいと思った。かなり真
面目なことは、『学報二十三号』（S 56・12）
で報告したので、今回はその周辺を二、三書
くことにする。

七月末、期末試験を片付けて、成田から英
国航空に乗り、到着の日が偶然にもチャール
ズ皇太子とダイアナ嬢のご成婚の日で、国営
機ということもあつてか朝食時に、アナウン
スでキャプテンのご成婚への祝辞、アルコー

ル飲料のサービスがあつて乗客一同乾杯で
祝った。ヒースロー空港へ着くと、英国を代
表するタイムズ紙では三段ぬきで、朝の七時
四十五分からの分刻みの式典の日程を報じて
いたし、翌日の大衆紙デーリーミラーでは、
ご成婚式の折の王室婦人の服装は英国々旗の
一色をとるのが慣習だそうで、エリザベス女
王のドレスはアクア・マリン、皇太后は
シー・グリーン、ダイアナ妃の実母、ミセス・
キッドはヒアシンス・ブルーなどと報じてい
るのが目を引いた。ご存知のように式典は十
七世紀の鬼才の建築家、クリストファ・レン
によるセント・ポール寺院。オックスフォ
ードの大学の一つであり、同時にカテドラルで
もあるクライスト・チャーチのベル・タワー
もこの人によるものだという。（ここで彼に
こだわる理由はあとでふれるが）。

オックスフォードに都合二十五日いたが、
最後の週末、レンタカー・イタリヤ製の小さ
なフィアットでウエールズに旅した。A 40道
路を西にとり、グロスターへ入ってウエール
ズに近づくと、土の色、石の建物の色が淡い
ココア色に変って行くのが印象的だった。夕
方早く、丘と谷川がきれいだというロス・
オン・ワイという小さな町へ入った。ドライ

ブでは宿の予約はとらないで、無理をせず、
着いた所の旅行案内所で尋ねて宿泊の場所を
決めるのが賢明、と聞いていたので、十四世
紀の建物だというキングズ・ヘッド・ホテル
という、ひなびたバブに一泊、食堂には歴史
の王たちの胸像画がかかっていた。翌朝早く
に市が立つというので、早起きして歩いて
出かけた。マーケットは露店で果物や、野菜、
植木鉢の花々があふれ、衣類や古いスプーン、
コイン等も出ていた。古い一本の銀のスプ
ーンがあつて、しばらく手にとつて眺めていた
が、手許不如意であつたので諦めた。十時頃
チェックアウトして、ロールズ・ロイスで有
名なロールズの生地モンマスで車を降り、
ウエールズの民芸品、木彫りのラブ・スプ
ーンを何本か買った。これは昔は恋する男たち
が自分で彫つて、恋人たちに贈つたものだ
という。蹄鉄は「幸運」、車輪は「あなたのだ



ウエールズの小さな町
ロス・オン・ワイの朝市

めに働こう」、鍵穴は「家庭」、ハートは「私の心を与えよう」、ベルは「ウエディング・ベル」、楯は「あなたを保護しよう」、よじれば「二人の結合」を意味し、彫る人によってさまざまなバリエーションがあるのだという。ヘレフォード、エイ・オン・ワイとまわりブレコンで二泊目、木々に囲まれ、庭の手入れが行き届いて清潔なクライスト・カヘッジというパブリック・スクールをまわって、カーデイフへ下り、高速道路M4をとり、セバーン川を渡った。ウエルズ三〇〇マイル（約四五〇キロ）の旅でここだけが有料道路、二〇ペンス（約九〇円）払った。



ウェールズのラブ・スプーン

オックスフォードを引き上げ、ロンドンでは三泊、ウエストミンスター橋を歩いて渡って、サウス・バンクにあるヘイワード美術館での「ピカソのピカソ展」へ出かけ、作品「フットボーラー」などが印象的。入場料は二ポンド（約九〇〇円）だが、午前中は半額というので、十二時までに入れるように道をいそいだ。歩きながら、なぜロンドンまで来て、わずかにポンドのためにいそぐのだろうか……

と自分を眺めておかしかった。テート美術館の特にマチス、それにピカソ、ドガ、国立美術館のダ・ビンチ、ロートレック、ルノアール、ピクトリア・アルバート美術館ではシリラのガラス器、国立肖像画美術館など見るべきものが多かった。夜はセント・マーチン劇場で初演以来二十九年目というアガサ・クリステリーの「ねずみとり」、登場人物の一人に建築家志望だが、ゲイボーイ的身のこなしをするニヤけた青年が居るのだが、「僕の名前はクリストファ・レン」と言ったので、つい大きな声で笑ってしまった、囲りの観客の静かさにびっくりしたのだが、時が時だけに演出上のサービスかと思つて、あとで原作を見たら、原作通り。クリステリーの茶目に吹き出してしまった。もう一つはハー・マジエストイー劇場での「アマデュウス」、アマデュウスとはモーツアルトのミドル・ネーム。モーツアルトとライバルのサリエリをテーマにしたもので、最近、日本でも江守徹と幸四郎で上演され、話題になったが、私の横にいたイギリスの女性らしい人が、夫らしい人、本当はモーツアルトはあんな風でなかったことを期待する、などとささやいていた。

英国旅行の仕上げはスコットランドのエジ

ンバラ。キングズ・クロス駅の手荷物預所に大きな重い荷物を預けて、シオルダー・バツグと手回り品だけの身軽さ。「フライング・スコツツマン」という愛称の電車で五時間。四人が向かい合っている座席の間にテーブルがあつて、そこに小さく折つた地図を置き、移り変わる街と景色を眺めた。ヒツチン、ピーターボロー、グランサム、ヨーク、J・カークアップ氏の出身の地であるダラムを経て、ニューカッスル。ベリック・アポン・ツイードあたりから北海が見え出した。境界を通り、クロムウエルがスコットランド軍を破ったダンバーを経てエジンバラ着、午後三時。エジンバラの街は石炭のすすで面白い程にくすんだ街だった。折よくエジンバラ祭の最中、お城でのバグ・パイプの演奏、バスで南へA7とB704をとり、三〇分ばかり走った郊外での十七世紀の服装でのデイナーパーティー。スコットランド民謡を聞きながらの素朴な食事はおいしかった。城から東へ出ると、十二世紀初頭に建てられたフランス・ルイ王朝のたずまいのホーリルド宮殿、悲劇の女王メアリー・スチュアートの居間や、大広間の絵画を見て、宮殿を出ると、昔ケルト民族がかかり火をたいていたと伝えられる

アササイズ・シートという小高い丘を眺めながら、クイーンズ・ドライブを歩き、ウエスト・リッチモンドSTからニコルソンSTへ出て、エジンバラ大学のオールド・カレッジへ入り、掲示板など眺めたりして、ハイSTへと出てホテルへ戻ったのだった。

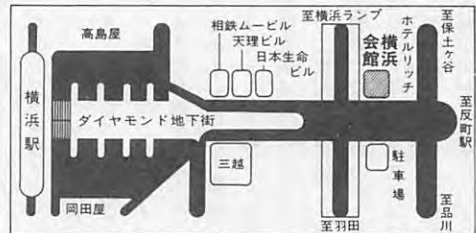
この旅行で私は何よりも地図を片手に歩いた。それには楽なくつをはいていたのが助かった。困ったのはお金。なるべく現金を持たないようと思つて、クレジットカード・カードを二種、バス・電車賃・チップ程度のトラベラーズ・チェックを用意したのだが、私を持つていたカードはオックスフォードのような小都市では余り役に立たず、手持ちのものは減るばかり。ロンドンのアメックスで借金をするというハブニング。それにエジンバラで予定外の買物をしてしまつて、スコットランド王立銀行で、成田から横須賀までに必要な円を残してポンドに換えて貰つたり。どこでもよく使われていたカードをご参考までご紹介すると「マスターカード」、「ビザ」、「ヨーロッパカード」などのようだった。しかし、どんな行き方をして、英語圏の国は、英語関係者にとっては面白いものだった。

(S 57・8)

の会の葉香 つどい

皆様お元気でいらっしゃいますか?! 年に一度の同窓会の季節がやってまいりました。家事に、仕事にお忙しい毎日かと存じますが、懐かしい先生方を囲み、学生時代に返ってみませんか。是非お出かけ下さい。

日時 6月26日(日)
13:30~15:30 受付 13:00
場所 ホテルリッチ 横浜
横浜市西区北幸1-11-3
TEL. (045) 312-2111
会費 2,500円



尚、準備の都合上、同封の返信用ハガキに出欠、近況をお書き込みの上、6月19日迄にお返事下さい。お問い合わせ等は、短大内香葉会室 ☎045-784-1491 内線 216 までどうぞ。

クラス会報告

△女子高等学校英語科一回生のつどい▽

去る昭和五十七年七月三日、東京京橋の京割烹「ひざし」に於て女子高等学校英語科第一回卒業生のクラス会を催しました。

女子高等学校は三春台に誕生したものの、

昭和二十五年三月に英語科、家政科の第一回卒業生に続き、二回生、三回生と送り出し、残念ながら学校の経営方針の変更のため廃校となつてしまいました。その為、私達卒業生は香葉会の会員にはなつておりますが、短大に進んだ方々の他は、母校を持たぬ故に永い間横の連絡がとれず、音信不通が続きました。幸い大羽さん、今井さんのお骨折りで一昨年三十年振りにクラス会を持つことができました。今年は昨年に続き、他界された七里さんを除き、当日十二名もの懐かしい顔が揃いましたし、欠席の方々多数のお便りも届きました。卒業生がたった三十名でしたから立派なものです。

卒業以来三十二年、既に五十ウン才のオパン共ですが、少女時代の面影を残し、まるで昨日三春台の校舎を後にしてきた心境のまま語り合い、笑い合いました。

席上「人になれ奉仕せよ」のブックシールの紹介があり、早速多数の方が注文の申し込みをさせて頂きました。あの当時、復員寮の若き独身男性だった上市先生が今は白髪が一寸多めの事務長先生とは誰も想像できない様子でした。

さてこの「人になれ奉仕せよ」のモットーが私達の心の糧としてきざみ込まれている事を今更のようにあらためて認め合い、この言葉の持つ意味を論じ合いました。もつとも珍釈、奇釈も飛び出しましたが。

終戦後間もなく当時めずらしい「英語」「家政」専門の女子高に集まった個性豊かな女の子達でしたから三十二年たった今も一人々々がキラ／＼輝いています。「苦しみも悲しみも幾歳月」の私達昭和一ケタの人生でしたが、どんな時でも前向きに一步步進んでいるのをお互い知り、言葉はなくても通じる暖かい慰めとはげましを胸に覚えるひとときでした。その後、二次会を銀座の風月堂に移し、懐かしい女子高時代の想い出話しに花が咲きました。又今直面している老人問題も語り合いました。

形としての女子高は今はありません。でも私達の心の中には母校が永遠に生き続けてお

ります。来年の再会を約して。

当日の出席者。磯部(中辻)、今井(角田)、漆畑(遠藤)、大岡(内田)、大羽(佐藤)、金子(石渡)、栗原(飛弾)、小林(保田)、常盤(金子)、早坂、長谷川(加藤)、田牧(津野)の諸氏。欠席者、新井(梅津)さん、ガールスカウトのキャンプ指導中。長谷川さん、商工会議所婦人会全国大会出席中。中沢(斉藤)さん、ママさんテニス北信大会出席中。矢さん、仙場さん、柴田さんそれ／＼在米中。丹沢、飯田さんは御家族のご病氣療養中。早くお元氣になられてお顔をみせて下さい。お祈りいたしております。

田牧洋子(旧津野)



五十七年度

総会報告

今年の香葉会の集いは昨年と同じザ・ホテルヨコハマ(好評でしたので…)でと計画しましたのに、残念ノ大安と重なって予約がとれず(未来のジューンブライドが多勢控えているというのに…)ホテルリッツ横浜会館九階ホールで開きましたが、地の利を得てか、出足よく約八十名の方にご出席戴きました。先生方は、柳生院長、林学長、下田先生、宮川先生、徳永先生、中田先生、千葉先生、の錚々たるお顔ぶれに、なつかしい安藤先生をお迎えし上市事務長がお一人くを紹介して下さいました。又、傑業会長高杉氏、幹事長小泉氏がご臨席下さいました。一時半、総司会を昨年に続き、引受けて下さった光畑清兄(英2・二十七年卒)の礼拝司会に始まり、「山上の垂訓」のみことを学び、讃美歌を歌い学生に戻った気分。近年とみに父上をそっくりなられた兄の風貌と低声の美声に故光畑教授のシェークスピア劇特訓を思い出したりして。続いて田中啓子幹事長(家五十二年卒)により、前年度事業報告会計報告、次年度予

算審議がされ全員一致の賛同を得て承認されました。(表をご参照下さい) 諸物価高騰と会員増加の為、賛助金を一口千円にする事に賛成して戴きましたので、ご協力をお願いします。又、会長以下役員、幹事の再任の賛成を得ましたので、これから二年又がんばります。二時から葛城容子姉(国四十九年卒)の司会で二部に入り、十二、三人づつ囲んだ円卓で軽食をとりながら、先生方や卒業生のユーモアあふれるスピーチを楽しましました。卒業?十年以来始めての顔あり、半白の頭あり、堂々の貫録あり、今春入会のホヤホヤ可愛子ちゃんあり、色々とりまぜて楽しい談笑。先生方の若さと活力に脱帽しつつ、葛城姉の巧みな進行に学生時代に戻ってはいやいだ一時でした。準備委員一同、皆様のご出席に感謝し、来年の趣向に、早、頭を集めておりますので、是非お出かけ下さい。場所は同じ処で、六月二十六日(日)にお待ちしています。

(古城記)

第一部	総司会	光畑 清
礼 拝	司会	光畑 清
前 奏	奏楽	藤田 幸子
讃 美 歌	537	
聖 書	テサロニケ人への第二の手紙第三章十六節	
祈 禱		
讃 美 歌	531	
黙 禱		
後 奏		
総 会		
事 業 報 告		
会 計 報 告		
新 年 度 予 算 案		
そ の 他		
第二部	司会	葛城 容子
懇 親		

香葉会 昭和56年度決算、57年度予算

昭和56年度決算				昭和57年度予算	
収入の部	予算	決算	増減	収入の部	
会費@¥4,000×776名	3,104,000	3,104,000	0	会費@¥4,000×745	2,980,000
合同援助金@¥1,000×776名	776,000	776,000	0	合同援助金@¥1,000×745	745,000
賛助金(148名)	300,000	256,770	43,230	賛助金	400,000
委託販売手数料	900,000	654,511	245,489	委託販売手数料	700,000
総会費	—	112,500	112,500	預金利息	50,000
預金利息	30,000	79,148	49,148	雑収入	—
雑収入	—	45,800	45,800	積立金勘定より繰入	1,000,000
前年度繰越金	405,697	405,697	0		
積立金勘定より繰入	0	199,624	199,624		
合計	5,515,697	5,634,050	118,353	合計	5,875,000
支出の部	予算	決算	増減	支出の部	
通信費	1,500,000	1,475,380	24,620	通信費	1,600,000
印刷・製本費	600,000	706,874	106,874	印刷・製本費	500,000
総会・会費	600,000	853,580	253,580	総会・会費	800,000
交通費	100,000	96,500	3,500	交通費	80,000
用品費	30,000	66,780	36,780	用品費	10,000
委託費	60,000	53,984	6,016	委託費	70,000
謝礼費	80,000	114,000	34,000	謝礼費	100,000
消耗品費	20,000	19,572	428	消耗品費	10,000
人件費	470,000	160,700	309,300	人件費	400,000
合同分担金@¥1,300×776(予) @¥1,100×776(決)	1,008,800	853,600	155,200	合同分担金@¥1,300×745	968,500
新入会員歓迎費	1,000,000	1,196,300	196,300	新入会員歓迎費	1,290,000
積立金勘定繰出	0	0	0	積立金勘定繰出	0
名簿発行準備金	0	0	0	名簿発行準備金	0
予備費	30,000	26,000	4,000	予備費	30,000
雑費	16,897	10,780	6,117	雑費	16,500
合計	5,515,697	5,634,050	118,353	合計	5,875,000

合同同窓会報告

前号で、会館購入について報告しましたが今年も何件か物件が出て、具体的な話になりながら遂に購入迄に至りませんでした。購入者の名義とか、登記とか法律上の問題が充分解決できなかった為です。規約改正も、目下審議中で、先ず合同の基となる団体の規約が出来なければ、会館入手は無理とわかりました。各部会の意見調整に手間どり、特に燦葉会は資金の八〇%をもつのですから、発言の強いことは当然ながら、「オール関東」の合同精神を守るために激論を戦わす事も、しばしばです。尚今年度合同同窓会で田中会長の再任が承認され、学校法人理事(同窓会選出)に高杉燦葉会長が前任の町田理事に代り推されました。町田先生が任期満了にあたり年令を理由に辞退されたことは、残念ですが、高杉新理事の活躍に期待したいものです。町田先生の純粋且つ眞摯なお人格による永年のお働きに心から感謝申し上げます。

(古城記)

賛助金をご寄付

下さった方への

お礼とお願い

今年も後記の方々から総額「四十五万一千九百八十七円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、年年「香葉」の発行がむずかしくなっておりましたが、卒業生唯一の雑誌をなくしたくないと、編集員一同がんばっておりますので、今後共賛助金の御協力をよろしくお願い致します。

五十七年度賛助金寄付者(敬称略)

榊原恵子 中里玲子 増本順子 高野由美子
高橋秀子 矢田宏子 田牧洋子 稲川佳代子
馬場俊子 白田修良 小松照代 山吉たか子
長部宙子 荻野光江 夕八茜 長谷川めぐみ
稲垣愛子 高山政子 星明美 海老澤さよ子
佐藤治子 砺波雅子 出榮美子 馬越千恵子
鍋木陽子 河村順子 北尾文代 佐藤葉師子
小関依子 中根悦子 原嶋曜子 福岡世紀子
松上尊代 漆畑晴枝 関根幸子 三輪由利子

松本宏子	小川洋子	高橋静子	櫻澤恵理子	中里玲子	石守あみ	水木直子	籍鳥三枝子
加藤恵子	飯塚悦子	恩田靖子	伊藤紀英子	井田玲子	中村智子	高橋玲子	佐々木晶美
青木朋子	高橋由美	山本明子	佐々木恵子	畑中頼子	渡邊光代	彦坂園代	土田由利子
井上紀子	長井恭子	斉藤道子	斉藤理恵子	辰沼滋子	陶山正代	寺内雅子	吉田千恵子
新野泰介	山平洋子	菊地和子	山本瑠美子	安彦潤子	鈴木真紀	海野羊子	岩本ひろみ
亀尾靖子	都竹道美	岩堀令子	毛利ちとむ	田中晴子	澤口和子	鈴木葉子	田辺美紗子
笠井直美	中山晴美	山内晴美	平井四方子	古野祐子	若宮禎子	岡崎道子	大石とよ子
村田清美	中川あや	花塚裕美	広瀬久美子	不二恵	小谷八千代	山口佐智子	飯島敏子
伊東真澄	田中久恵	安藤恵子	中沢富士子	光畑清	五十嵐亮子	鈴木恵美子	田中啓子
土屋幸枝	島田郷子	飯田呀子	藪田香鶴子	平尾富子	古城房子	石田禎子	長谷川有紀
時田信夫	細野清美	鈴木直子	長嶋久美子	坂本和子	城戸順子	葛城容子	鈴木もと子
山口祐子	押野澄子	玉木宮子	岩村ひとみ	水野雅子	井上文枝	高橋咲子	宝永よし子
土山典子	原田和枝	森谷敦子	高張由紀子	塚本令子	阿部幸江	佐藤美代	一之瀬浜子
原佐起子	伊藤陽子	金田春美	福田しほり	相吉典子	洲上龍美	杉江靖子	石垣むつみ
大井法子	岡崎幸恵	甲斐昌子	浅田美弥子	京免静子	日向節子	妻沼信子	青木千恵子
小野和子	桐原千恵	衛藤量子	牧島美智子	相原梅子	坂本千文	川島久里	中石みどり
小濱朝子	渡辺良子	原央子	リーアイ実子	早川文江	辻真由美	宮本薫	長谷川不二恵
知久幸子	庵原夏江	金子卓子	清田恵美子	松本久子	福川浩代	飯田梁子	榎野富美子
須田広子	石橋寛子	内山洋子	田中寿美子	川崎久江	柳生ふみ	篠原淳子	黒坂紀代子
澄谷亮子	高村須美	篠原繁治	古関マリ子	菅野弘恵	狩原公子	小島和美	菊地美智子
柏木富恵	平山 幸	佐藤久子	中村はるみ	古郡綾子	寺岡利子	木村燦子	井上多恵子
斉田実子	波多朝子	星野昌子	高斎香代子	八木智恵子	石田なおみ	後藤美和子	
小島純子	黒沢優子	本田敦子	錦織マサ子	坂本千代子	野路由美子	小林サエ子	
柳川礼子	小山郁子	千葉節男	田丸瑠美子	佐々木礼子	榎葉会	ラタナティップ・カンニ	
松田良子	後藤幸子	守家鈴子	杉山ますみ	カ			

(以上二三〇名)

母校ニュース

△新任教員紹介▽

立花 桂先生——一般教育（英語）担当



五十七年度より専任講師になられました。英会話・翻訳・通訳がお得意の分野で、今年開催される

夏期海外英語研修セミナーでのご活躍も期待されます。



赤羽ひろ先生——家政科担当

赤羽先生も五十七年度より専任講師となられました。調理実習を受け持たれています。運転免許を取られたり、テニスを始めたり、若さあふれる先生です。

お二人を迎え短大の専任教員数は四十九名になり、益々充実しております。

△夏期保育公開講座開催▽

昭和五十七年七月二十九日から三十一日までの三日間、地域の母親たちを対象とした夏期保育公開講座「育む」を開催した。

プログラムの幼児教育科が中心になって作成。

今年のテーマは「母と子のふれあいを求めて」とし、母と子がともに遊ぶことを通して母と子のふれあいを深めてもらうことを目的としたものである。

募集定員は当初、三歳から五歳までの幼児一名とその母親を一組とし、三十組六十名とした。ところが受講受付日に早くも三十組を突破し、急遽六十組百二十名までに増やしたが、それでも応じきれず、結局最終的には六十七組百三十七名という盛況ぶりであった。幸いに三日間とも好天に恵まれ欠席者もほとんどなく、また事故もなしに、母と子で体を動かしたり、楽器にふれたり、紙工作をしたりして、楽しいひとときをすごしたようである。

△夏期海外英語研修セミナー実施▽

第一回の国際交流が昭和五十八年八月十六日～二十九日に実施されることが決定した。英語力の向上と米國文化への理解を深める

ことを目的としたもので、ハワイ大学スピーチ学部の全面的協力をえて本学が独自に開発したプログラムをもとに、ハワイ大学マノア校で二週間にわたって行われる。とかく観光のイメージが強調されるハワイだが、手軽にいただけること、東西文化の接点であること等、語学研修には最適の場所といえよう。

〔現地でのプログラム〕（予定）

日数	期	日	午	前	後	夜	間
1	8/	16(火)	出発・ホノルル着	昼食・オリエンテーション	夕食		
2		17(水)	UHにてオリエンテーション	校舎見学		自	由
3		18(木)	UHにて学習	免税店見学		ホテルにてディナー	
4		19(金)	"	州議会訪問		自	由
5		20(土)	島内一周バスハイク			自	由
6		21(日)	フィールド・ワーク			自	由
7		22(月)	UHにて学習		自	由	ホテルにてディナー
8		23(火)	"		ビーチアウティング	自	由
9		24(水)	"		自	由	ホテルにてディナー
10		25(木)	"		修了式・証書授与	自	由
11		26(金)	フィールド・ワーク			ホテルにてディナー	
12		27(土)	自由行動			自	由
13		28(日)	自由行動			クルーザーでのアロハパーティー	
14		29(月)	ホノルル発				
15		30(火)	成田着				

注 ● 渡航はパン・アメリカン航空を利用する。 ● UHはハワイ大学の略称。

△松垣先生、勲五等叙勲▽

松垣好子名誉教授（家政科）は、この春の叙勲において、教育分野での長年の功績に対して勲五等瑞宝章を授与されました。

△新図書館建築着工▽

このたび、短期大学待望の図書館が建設されることになりました。

短大正門にむかつて右側の、今まで駐車場として使用されていたところに、地下一階、地上五階建ての近代的な図書館ができる予定です。五十七年十月十四日には、盛大に起工式が執り行われ、五十九年四月三十日には完成の予定です。この建物は、総面積が約三千三百㎡、そのうち一階部分が事務管理部門として使用されます。

図書館では、より多くの学生教職員に活用されるようはりきっております。卒業生の皆様も、オープンのものにはぜひご見学においでください。

編集後記

不慣れの者ばかりで、出来るのだろうかと不安だった十二号も、皆様の御協力のお蔭で完成する事が出来ました。

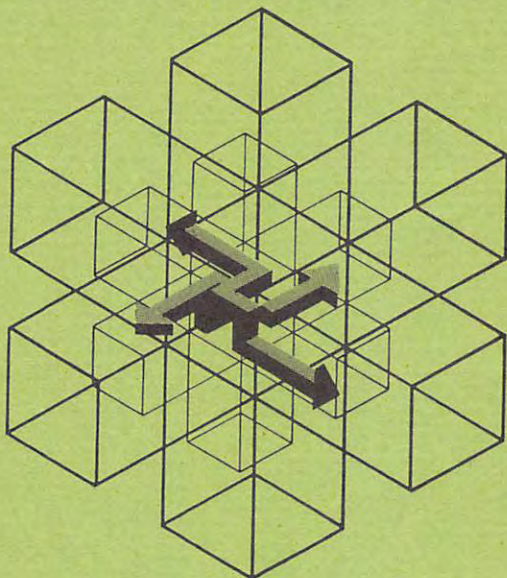
総会の出欠席のお言葉のお言葉は、短いながらも生活の御様子が伺え、私共も楽しく拝見させて頂きました。香報室には、紙面の関係上一部しか掲載できませんで、残念に思います。

展望の欄では、日頃毎日のようにお顔を会わせながらも、知らずにいた先生方の一面を伺うことが出来、楽しくインタビューをさせて頂いていただきました。又、自分の言葉が活字になる恐ろしさもちょっぴり知りました。いつも論文などをお書きになっていらつしやる先生方を改めて尊敬しなおしたりしております。

果して皆様に楽しんでいただけるだろうかと不安ですが、今後とも「香葉」への応援よろしくお願い致します。



田中智子
赤井千里
冠木啓子
中島真由美
佐藤庸子
樋口由美子



後輩へ就職求人を!

本学卒業生の就職については、卒業生の実績が実を結び、毎年卒業予定者の2～3倍に達する求人があり、各科共百パーセントに近い成績をあげています。しかし、地方出身者に関しては、短大卒業生を受け入れる職場が少ないのです。そこで、高校卒業生に比較し、対人応待等に優れ、即、戦力化し易い短大卒業生、皆様の後輩採用を、皆様及び皆様のご主人に是非、ご検討いただきたいのです。

短大生ご採用のお話しがございましたら、下記学生課就職係迄、ご連絡いただきますように、お願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 784-1491 内226・258

関東学院女子短期大学学生課就職係

香葉 第12号

昭和58年4月30日 印刷・発行
関東学院同窓会・香葉会

代表者 古城 房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236

関東学院女子短期大学内

電話<045>784-1491 (内線 216)

関東学院同窓会・香葉会誌